

【特別寄稿】

ブエノス・アイレス街歩き

この街をもっと見てみよう！

林 正明

元アルゼンチン三菱商事の林正明氏ご寄稿のブエノス・アイレス街歩きを連載いたします。在亜商工会議所会報に掲載されたものを、同氏と同商工会議所のご厚意で日亜協会会報電子版にも掲載させていただきます。成り立ちからの深い知識を交えたご寄稿は、“そうだったのか！”との気付きとともに懐かしい風景を思い出されるのではないのでしょうか。

(1) ベルグラノー

ベルグラノーはブエノスに四十八あるバリオの一つで、大使公邸や日本人学校、それに中華街やリーベル・プレートのスタジアムなどもあり、私たちには最も馴染み深い街の一つと思われます。

「地区（例えばボーカ地区など）」と和訳される“バリオ”は、ブエノス市が制定する公式な区分ですが、行政区分では有りません。ブエノス市の行政的な区分は十五あるコムーナで、公園や街路樹それに道路の保守・整備を担当していて面積はバリオより大分大きく、一部の例外を除き複数のバリオが含まれています。東京の例だと、江東区や大田区などがコムーナ、浅草や新橋あるいは蒲田などがバリオに相当すると考えると理解しやすいと思われます。

ベルグラノーは 1855 年（安政二年）ブエノス州の町であったフローレスの町民が、州知事の認可の下ラ・プラタ川の河畔段丘地帯に新興別荘地の開発を行ったのが原点と言われています。その後、フローレス町もベルグラノー町も膨張を続けるブエノス市に併合されバリオとなりました。

1880 年、ベルグラノー町はこの国の暫定的な首都となりました。

当時、ブエノス市はアルゼンチンの首都であると同時にブエノス州の州都でしたが、テヘドール州知事はこの制度に反発し、大統領以下政府要人を郊外に追放しました。その結果、未だ発展途上の閑静な住宅街で人口も少ないベルグラノー町が、テヘドール州知事が失脚するまでの数ヶ月だけアルゼンチンの首都となり、広場を隔て聖母教会と向い合っている当時の町役場の建物が国会議事堂となりました。

現在この建物はサルミエント博物館となっていて、その一部は市が運営するカルチャー・センターとして利用されています。

現在は「カビルド大通り」と呼ばれるブエノス市とアルゼンチンの北西部を結ぶ植民地時代からの古い大動脈「カミーノ・レアル（王室街道）」があり、これに沿って旅人や付近の住民相手の“プルペリーア”（食品・雑貨店と飲み屋が一緒になった様な店、古いアメリカ映画“シェーン”の舞台となる店そのものの様な感じと思われます）が数多くあって賑わい、ベルグラノーの発展に寄与してきました。

東西方向に細長いバリオを、市中心部からビセンテ・ローペスやフロリダなど北部郊外都市を結ぶ鉄道三線（ミトレ線スアレス支線、ミトレ線テイグレ支線、北ベルグラノー線）、それにカビルド大通り・リベルタドーラ大通り・ルゴネス高速道路等が南北方向に横切っています。

現在のベルグラノーは西（内陸側）から東（ラ・プラタ川）へ向け、夫々特色がある四つの地域に分けられると思います。

1) 高級住宅街：

スアレス支線のベルグラノー（R）駅周辺、特に西側、は古い大邸宅が数多く点在しインカ大通り沿いには高級マンションが建ち並ぶ住宅街で、大使公邸や日本人学校もここにあります。因みに、多くの乗客は駅名に附記された（R）は“住宅街（Residencial）”の（R）だと思っていますが、この支線はブエノス市とサンタフェ州のロサリオ市を結んでいるので（R）は Rosario 市の略です。

2) 繁華街：

此処から東、カビルド大通りまでの地域はコマーシャル・ゾーンで、特にカビルド大通りとフラメント通りが交差する辺り一帯は、家電などの大型店舗・ガレリーアと呼ばれる集合店舗（一種のショッピング・センター）・銀行・ファストフード店等が立ち並び買い物客で賑わう繁華街です。

カビルド大通りからテイグレ支線を結ぶ地域も、高級マンションが建ち並ぶ住宅街となっています。この街にはベルグラノーの象徴とも言える円形の「聖母教会（Inmacurada Concepcion）」や、古い大邸宅をリサイクルした博物館や美術館が数多くあります。

この地域の東端、河畔段丘地帯は「ベルグラノーの崖地（Barrancas de Belgrano）」と呼ばれる、横に三ブロック続く細長い公園と呼んでも良いくらい大きな広場で、市民の憩いの場となっています。この広場には、もう一つのベルグラノーの象徴である「ペルゴラ（四阿：あずまや）」があり、1910年この四阿落成記念と“五月革命百周年”記念を合わせ、市立吹奏楽団による祝賀大演奏会が開催されたとの事です。

現在は時々、タンゴ愛好家達のダンス会場として利用されています。

また、広場の南端、パンパ通りに添った高台に、「自由の女神像」のレブ

リカが聳えています。樹木の陰であまり目立たないのが残念です。

広場の下を走るテイグレ支線の駅名もやはり **Belgrano** ですが (C) が付記されていて、乗客などは商業地帯 (**Comercial**) の (C) と思っ
ていますが、この支線はブエノス市とコルドバやトウクマン等アルゼンチンの中央部 (**Central**) を結んでいるのでこの様に呼ばれています。

3) 低地帯又はリトル・ベルグラノー :

この支線の東側からラ・プラタ川河畔までは“バホ・ベルグラノー”或いは“ベルグラノー・チーコ”と呼ばれています。

この地域に中華街や、この国で最大規模のリーベル・プレートのサッカー・スタジアム、ケネディ大学のキャンパスや「市立心身障害者リハビリ施設」等があります。

スタジアムの西からウダオンド大通りに沿ってリベルタドール大通りまでの区間、昔の競馬場の跡地の一部で馬蹄形をしたシャレと呼ばれる瀟洒な住宅が立ち並ぶ通称「バリオ・リーベル」と呼ばれる一角があり、中央にペニシリンで有名なフレミング (**Alexander Fleming**) を記念する小さくて静かな広場があって、木々の緑が濃い真夏や葉が黄ばむ暮秋は、筆者の主観に過ぎませんが、「これブエノス？」と何処かヨーロッパの田舎町の様な風情を感じさせてくれる場所です。リーベル・スタジアムでサッカーの試合が行われる時はこの区画へ通じる道路は全て封鎖され、住民以外は出入りが出来なくなります。

4) 河畔緑地帯 :

フィゲロア・アルコルタ大通りから東へ、ラ・プラタ川までは住宅やマンションは見当たらず、夜間人口は恐らくゼロに近いと思われる地域です。

アエロパルケ空港の滑走路の延長線上にあるので、離着陸する飛行機が轟音を響かせながら頭のすぐ上を通過するのは見ものです。此処にはブエノス・アイレス大学の建築学部・数理学部の広大なキャンパスや市民プール等があります。ルゴーネス高速通りと並行し非電化で狭軌鉄道の北ベルグラノー線が走り、大学や市民プールの近くにオルテイス駅があります。河畔沿い、市民プールと大学の間に、過去の軍事政権などいわゆる「国家テロ」の犠牲となった多くの市民を鎮魂する「追憶の広場 (**Parque de la Memoria**)」が 2001 年に完成しました。

(はやしまさあき : 元アルゼンチン三菱商事、ブエノス・アイレス在住)

正面入口からみた
ベルグラーノの象徴
円形の聖母教会
(Inmaculada
Concepcion)



古い家具や調度品を保存するコロニアル様式のラレータ美術館、
古典的な芝居やダンスの上演なども行われています。

崖広場の一角の「ペルゴラ（あずまや）」

寒くない日の夕方から夜に掛けて愛好家（主にご年配の方が多いうのだが）が集まってタンゴ・ダンスを楽しんでいます。

一寸古い話ですが、日本の民放の取材で、藤原紀香が習い始めたタンゴをここで披露したことがありました。



「崖」広場の南端、パンパ通りを望む高台にひっそりと佇む「自由の女神」像。

パリのセーヌ河畔にニューヨークの自由の女神像を縮小したレプリカが建っていますが、これはそのパリの像のレプリカでフランスで作られたものです。

